

四〇秒にすべてをかけた



指揮者 大井 朋雄

「今までのすべてをこの一本に懸けました」



[第19回福岡県消防操法大会]

技術を駆使した晴れの舞台

Document 2006.06.01 - 09.03

1番員 熊谷 博文

「走りました、ただひたすらに走りました」



2番員 中村 哲

「最高の声援のおかげで思いっきりやれました」



3番員 吉田 大

「本番は一発勝負集中あるのみでした」



火

災現場を想定して行う小型ポンプ操法。大会では、ポンプからホースをつなぎ、放水し、火点を倒すまでのタイムと正確な動作や士気が競われる。この県大会に福岡町消防団が田川郡を代表して出場することになった。この大役を買って出たのは高橋卓己分団長率いる第一分団。やるからには絶対優勝」を合言葉に、6月1日から旧川消防署金田分署で基礎訓練を開始した。選手には町のポンプ車操法大会で優勝を経験したメンバーもいて、多少の

自信もあったが、県大会、全国大会のビデオを見てレベルの高さを痛感。厳しい現実を受け止め、やがて覚悟を決めた。

6月15日からは田川消防署本署での本格的な訓練に移った。

「みんなを絶対優勝させる」。上村晋司小隊長をはじめとする熱い教官たち。応援に雑用、選手が訓練に集中できるようにサポートした大勢の消防団員。訓練のたびに選手を優しく送り出し、温かく迎え続けた家族がいた。たくさん仲間に応えるため、選手は仕事で疲れた体にむちを打つ。足首をひねってうずくまった者、脱水症状で倒れ込む者もいた。しかし、汗と水にまみれながら休憩時間も惜しんで訓練に向き合った。自らは歯を食いしばり、仲間には冗談を飛ばしながら、そうして、優勝を狙えるほどの操法を体で覚えていった。ついにそのタイムは40秒前後をたたき出すまでになった。そしていよいよ9月3日、大会当日。やることはやった。「いつもの力を出せば優勝できる」今まで自分たちを支えてくれた仲間と福岡町の看板を背負い、いざ、本番一発勝負に臨んだ。

団員、教官、そして家族に支えられ、県大会の舞台に立った。感謝の気持ちを胸に、日ごろの訓練の成果を全力で出し切る。

